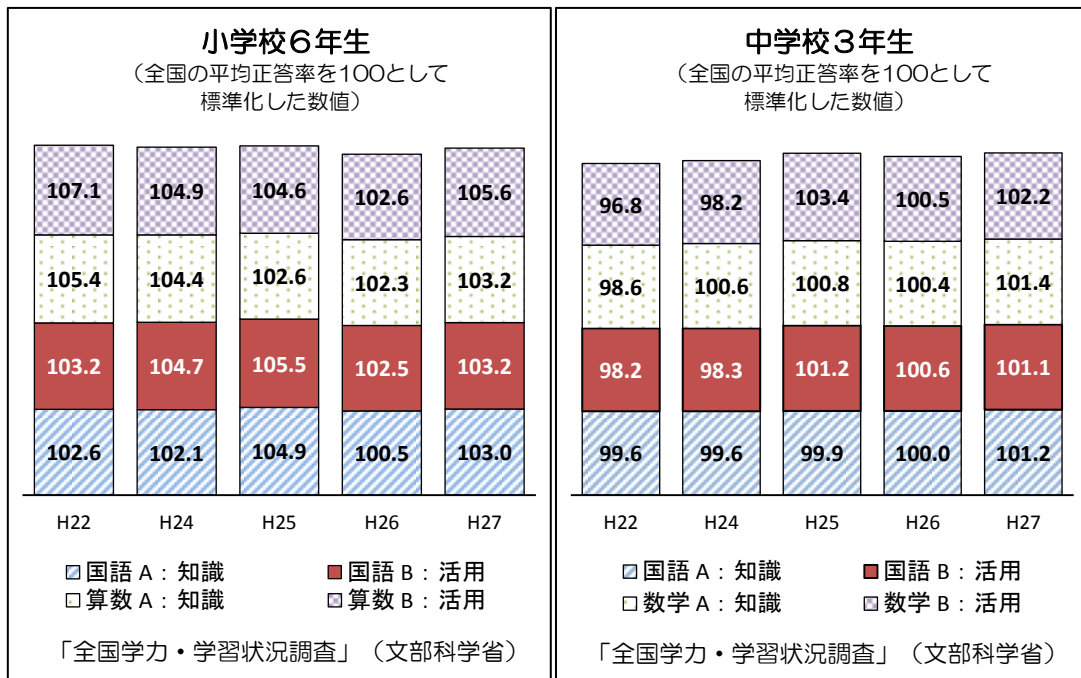


重点目標 1

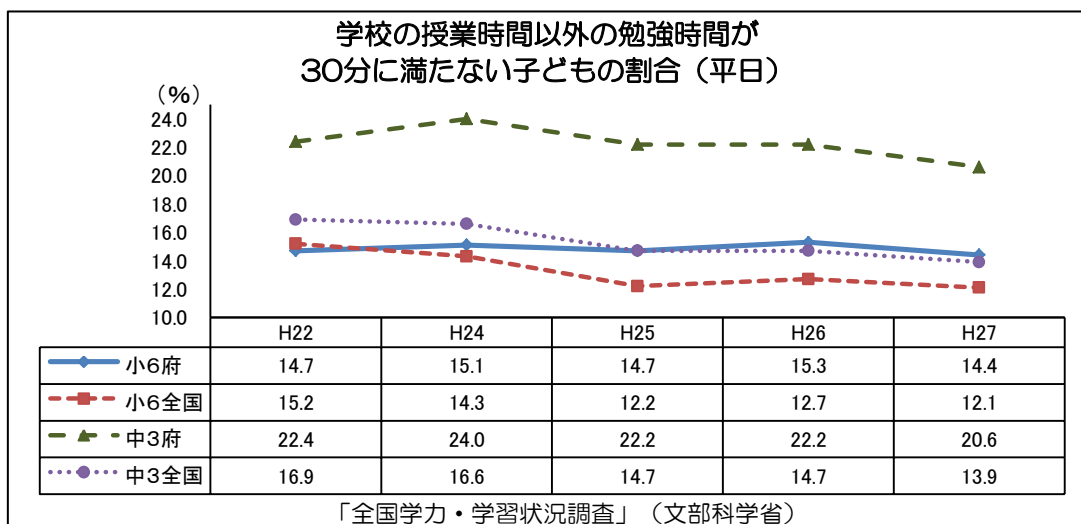
質の高い学力をはぐくむ

現状と課題

- 平成 22 年度に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果によると、京都府の小学生の平均正答率は全国と比べて高く、中学生は低くなっていましたが、京都式少人数教育の中学校への拡充、中1 振り返り集中学習「ふりスタ」や中2 学力アップ集中講座の実施など中学生に対する学力向上の取組により、平成 25 年度以降の同調査結果では、中学生の平均正答率は全国と比べて高い状況です。



しかし、平日における学校の授業時間以外の勉強時間が 30 分に満たない子どもの割合は、平成 22 年度以降、概ね減少していますが、全国平均よりも高い状況にあります。



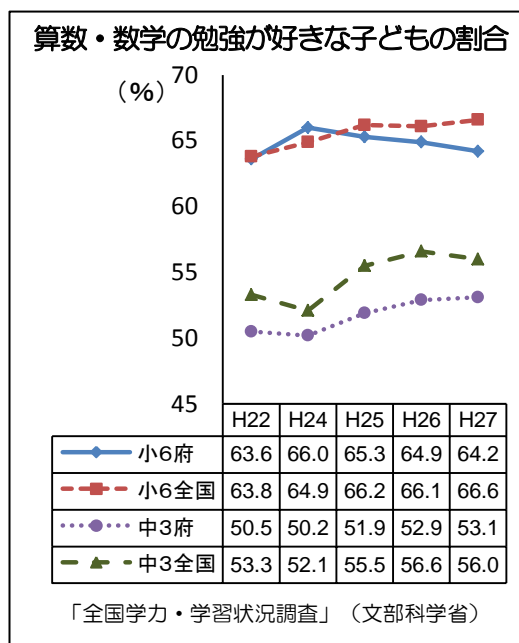
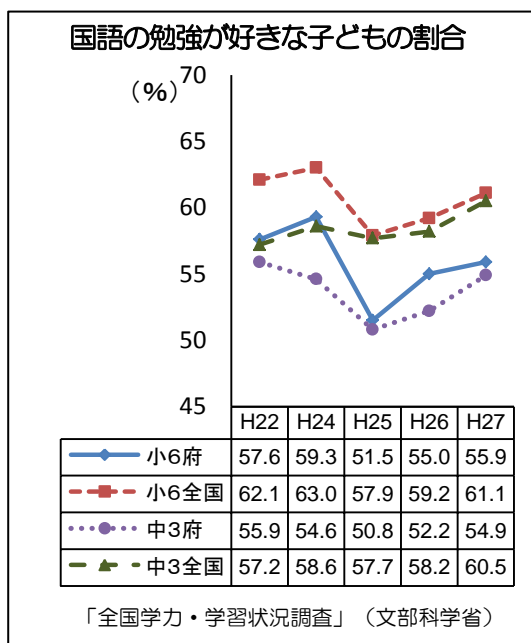
学習習慣の定着に向けて家庭学習の充実を図るとともに、基礎・基本の徹底に向けた指導の充実が必要です。

- また、小・中学生とも、全国と同様に、知識・技能を活用する力に課題があると言えます。そのため、知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けさせることが重要であり、それらの力の基盤となる「ことばの力」をはぐくむ取組の充実が求められています。

* 京都府では、「ことばの力」を次のように定義付けています。
 言語を通して知識や技能を理解する力／言語によって論理的に考える力／言語を使って表現する力

- 「国語の勉強が好きだ」と答えた子どもの割合は、平成 22 年度から低下傾向にあったものが平成 26 年度からは増加していますが、全国平均よりは低い状況です。また、「算数・数学の勉強が好きだ」と答えた子どもの割合は、小学校では平成 24 年度を境に低下しており、中学校では増加しているものの、全国平均より低い状況が続いています。

知的好奇心や探究心をはぐくむ取組とともに、京都が持つ力を活かした様々なアプローチで学習意欲を向上させる取組が必要です。



基本的方針

教育基本法・学校教育法において、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む意欲・態度」が、学力の重要な3つの要素として示されています。

京都府では、これらの要素を統合した学力を「質の高い学力」として捉え、互いに支え、協力し合う学びの集団を基盤とした主体的・協働的な学習を通してその力をはぐくみ、生涯にわたって自ら学び自らを高め、未来を見通し切り拓く力が身に付くよう取組を推進します。

主な目標指標

目標指標	基準値（出典等）	目標
全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国平均正答率の1/2以下の子どもの割合	小6 国:6.9%/算:9.3% 中3 国:5.2%/数:17.7% 文部科学省「全国学力・学習状況調査」(27年度)	減少させる
学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合	小6:14.4% / 中3:20.6% 文部科学省「全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙」(27年度)	小 10%以下 中 15%以下
国語や算数・数学の勉強が「好き」な子どもの割合 （「国語・算数・数学の勉強は好きですか」という各質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の計）	小6 国:55.9% / 算:64.2% 中3 国:54.9% / 数:53.1% 文部科学省「全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙」(27年度)	増加させる
社会人などの専門性を活かした授業を実施している学校の割合	小 87.7% / 中 63.2% 高 100% 小中：京都府教育委員会「教育課程実施状況調査」 高校：社会人講師授業改善プログラム実施状況(26年度)	100%
高校・大学連携事業を実施している府立高等学校の割合	100% 高校・大学連携事業の実績による(26年度)	100%

(1) 基礎・基本の定着

一人一人の学力状況に応じて学習できるよう支援するなど、子どもが学習習慣を確立し、基礎・基本を身に付ける取組を充実します。

- 複数教員による授業や少人数授業、少人数学級などを学校の状況に応じて選択実施できる「子どものための京都市少人数教育」を推進します。（(27)に再掲）
- 子どもの主体的な学習に向けて授業改善を図るとともに、小・中学校、高等学校での振り返り学習を充実するなど、基礎・基本を徹底する取組を推進します。
- 小・中学校で実施する学力テストにより客観的な学力の把握と分析を行い、一人一人の学力形成と校種間連携の視点を踏まえた指導方法の工夫・改善ができるよう支援します。
- ICTを活用した学習支援教材を作成するなど、一人一人の学力の状況に応じた学習が進められるよう支援します。
- 「まなび・生活アドバイザー」の配置を拡充するなど、福祉関係機関と連携し、子どもの基本的な生活習慣の確立と学習習慣の定着を図るための支援体制を充実します。

(2) 活用する力の育成

知的活動やコミュニケーション活動の基盤となる「ことばの力」を発達の段階に応じて育成するなど、基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむ取組を充実します。

- 子どもが主体的・協働的に学ぶ学習をはじめ効果的な指導方法についての研修により指導方法の工夫・改善を図るなど、授業を通じて基礎・基本の習得やそれらを活用する力を育成する取組を推進します。
- すべての教科で言語活動を充実するとともに、読書活動などを通じて、発達の段階に応じた「ことばの力」やコミュニケーション能力の育成を図る取組を推進します。(17)に再掲)
- 図書館や大学と連携した探究型学習を推進するなど、自ら課題を発見し、知識や技能を活用して課題を解決する力を培う取組を充実します。
- 「質の高い学力」の習得を目指して、小・中学校9年間を見通した学力向上システムを開発、構築する研究実践を支援し、すべての子どもの学力向上を図る取組を推進します。

(3) 学習意欲の向上

京都が全国に誇る大学の集積や研究機関などの人的・物的資源を有効に活用し、知的好奇心や探究心をはぐくみ、課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学習する取組を充実します。

- 大学と連携して数学や科学のコンテストを実施するとともに、企業の最先端の科学技術やものづくりを体験できる機会を拡充するなど、理数に関する知的好奇心や探究心をはぐくむとともに、主体的・協働的に学習する取組を推進します。
- 京都に数多くある大学や研究機関などと連携し、最先端で活躍している人から学ぶ体験授業を小学校の早い段階から積極的に展開するなど、子どもの知的好奇心をはぐくむ取組を推進します。
- 自然や歴史・文化遺産を活用した体験学習や、地域産業と連携し社会人の専門性を活かした出前授業の実施など、「京都」が持つ様々な力を活用して子どもの学習意欲を引き出す取組を推進します。
- タブレット端末を活用した双方向型の学習など、子どもの学習意欲や興味・関心を高める授業を実現するための取組を推進します。